

プログラムの構築・展開に関する実践報告

これまでにコーディネーターとして携わったプログラム(施策・事業・活動など)について1つ選び、プログラムの構築・展開の観点から図などを用いて、わかりやすくその実践内容を記載してください。
(A4判/2枚以内)

名前 多文化 太郎

<p>(1) プログラムに関連する事業・活動名</p> <p>○△□日本語交流プログラム</p>
<p>(2) プログラム実施の背景、課題</p> <p>○△□国際交流協会では、1990年より○△□日本語教室とマンツーマン交流活動を運営してきた。学習者はこれまで○○大学をはじめとする地域の留学生が多かったが、近年は企業等に就労する外国人住民の参加も増え、学習者の背景やニーズも多様化している。また、生活上の問題を抱える学習者からの相談が教室の学習支援者に寄せられるケースも増えてきており、その対応が課題となっていた。日本語教室は外国人住民の抱える問題を発見しつなぐ場として重要である。また、地域に参加していくためには、市民同士の交流や外国人が主体的に地域参加できるプログラムが必要である。</p> <p>そこで○△□国際交流協会では、新たな日本語教室を立ち上げることを2019年から検討を開始し、2021年から○△□日本語交流プログラムを開始した。</p>
<p>(3) プログラムの展開図</p> <pre> graph TD A[日本語交流員養成講座] --> B[マンツーマン交流活動] B <--> C[日本語教室] B --> D[日本語サロン] C --> E[日本語スピーチ大会] subgraph Box [] A B C end Box <--> F[外国人専門家相談会] Box --> G[外国人自主企画事業] </pre>

(4) プログラムのコーディネーションのポイント

日本語教育の有資格者が担当する日本語教室と、日本語交流員養成講座を修了した市民が日本語で交流する活動を組み合わせて1つの事業とした。

また、2020年度から日本語サロンと日本語スピーチ大会を実施することとした。日本語サロンは交流活動から見えてきた新たなニーズに対して日本語交流員が企画し実施する4～5回のプロジェクト型事業であり、スピーチ大会は広く市民に地域に暮らす外国人のことを知ってもらうことを目的に、日本語交流員と外国人学習者が企画・運営にあたる事業である。ともに参加者自身が企画・運営に主体的に参加できるようにするのがコーディネーションのポイントである。

さらに、日本語交流活動から、外国人専門家相談会や外国人自主企画事業など新たなプログラムを立ち上げたが、こうしたプログラム間のコーディネーションもポイントである。

(5) 実践の振り返り (省察)

日本語交流プログラムとしたことで、市民は日本語教師ではなく同じ地域に暮らす市民として気軽に参加することができ交流が促進された。また、外国人専門家相談会や外国人自主企画事業と連携することで、外国人住民の抱える問題の解決や、外国人住民の地域参加の促進につながっている。

特に、外国人専門家相談会でのフィードバックミーティングでは、これまで○△□国際交流協会には寄せられてこなかった相談内容が外国人専門相談会に寄せられていることが明らかになった。その1つに、○△□地域では子育て世代の親が参加できる日本語教室が限られているということが、地域日本語教育の課題として挙げられている。今後は、就学前の子どものいる保護者の日本語学習支援について検討することとしたい。